

第 117 回・日商簿記検定試験 2 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	不渡手形
売掛金	前払金	未着品	積送品
貯蔵品	受託買付	仮払消費税	車両
車両減価償却累計額	支払手形	買掛金	前受金
仮受消費税	未払消費税	委託買付	貸倒引当金
売上	固定資産売却益	償却債権取立益	仕入
減価償却費	固定資産売却損	手形売却損	貸倒損失

1. 猪俣商店より売掛金の決済のために受け取り、過日、小田原銀行で割引に付していた、同店振り出し、当店宛ての約束手形 500,000 円が満期日に支払拒絶されたため、同銀行より償還請求を受け、小切手を振り出して決済した。また、期日後利息 3,000 円は現金で支払い、手形金額とともに猪俣商店に対し支払い請求した。
2. 過日、石巻商店から買付を委託されていた商品 300,000 円を買い付け、代金は小切手を振り出して支払った。なお、引取運賃 2,000 円は現金で支払った。
3. 決算に際して、消費税の納付額を計算し、これを確定した。なお、本年度の消費税仮払分は 200,000 円、消費税仮受分は 300,000 円であり、消費税の会計処理は税抜方式によっている。
4. 平成 14 年に購入した社用車（取得原価 5,000,000 円）を、当期末（平成 20 年 3 月 31 日）に 1,000,000 円で売却し、代金については小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。当該車両は生産高比例法で減価償却しており（総走行可能距離 10 万キロ、残存価額 10%、記帳方法・間接法）、前期末（平成 19 年 3 月 31 日）時点の実際走行距離は 8 万キロ、当期の実際走行距離は 1 万キロである。決算に当たって当期の減価償却費を計上した上で売却の処理を行うこと。
5. 梶原商店へ委託販売のため、商品（仕入原価 400,000 円、売価 600,000 円）を船便で発送するとともに、小田原銀行で額面 400,000 円の荷為替を取り組み、割引料 5,000 円を差し引かれ、手取金を当座預金とした。なお、発送運賃等の諸掛 5,000 円は現金で支払った。